

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 28 日作成)

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	主 査 名：齊藤 雅也 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な建築・都市の実現に寄与するパッシブ要素技術のデータベース化 ・住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築 ・地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の検討。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	主査：齊藤 雅也 (札幌市立大学) 幹事：宇野 朋子 (武庫川女子大学), 高田 真人 (熊本大学) 委員：金子 尚志 (エステック計画研究所), 菊田 弘輝 (北海道大学), 北瀬 幹哉 (環デザイン舎), 小玉 祐一郎 (神戸芸術工科大学), 宿谷 昌則 (東京都市大学), 菅原 正則 (宮城教育大学), 須永 修通 (首都大学東京), 築山 祐子 (旭化成ホームズ), 畑中久美子 (岐阜市立女子短期大学), 長谷川兼一 (秋田県立大学), 廣谷 純子 (みつつデザイン研究所), リジャル ホーム バハドゥル (東京都市大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	環境適応モデル WG：熱的快適性の適応モデルは、人体－環境間の熱移動モデルに対し、実態調査の立場から調査を主体とする。これまで世界各地で実態調査、データベース化が進められ、温熱指標と比較することで、中立温度の季節変動、受容範囲の拡張など、新たな知見が得られてきた。 しかし日本では、適応モデルに関する議論、調査データの蓄積は十分に行われてこなかった。そこで文献調査や実測調査によりデータを蓄積し、また議論を行い、寒暖の大きな日本地域に適用可能な適応モデルを提案する。	
2015 年度予算	165,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s14/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし 参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 46 回熱シンポジウム「バイオクライマティックデザインの視点から地域・都市・建築の環境を考える」 参加者数 84 名 資料：同上
大会研究集会	なし 参加者数 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 大会 (環境工学) OS “Adaptive Model and Occupant Behavior” を企画し、室内熱的快適性を評価する適応モデルに関する 4 題の発表が英語セッションとして実施された。 2. 第 45 回熱シンポジウム (2015.10.30～31 熊本県立大学) を企画・開催し、参加者 84 名で盛況に終えた。また関連行事として見学会を実施した。 3. 小委員会を 4 回開催 (1 回は予定、環境適応モデル WG と合同) した。また、委員公募の結果、畑中久美子 (岐阜市立女子短期大学) 委員が加わった。
委員会活動の問題点・課題	本小委員会は 2015 年度、第 45 回熱シンポジウムの企画・準備に当たったが、全国各地に委員が散らばっているため、通年の小委員会の配分予算の範囲内では委員旅費を工面するのが困難であった。対応として、インターネット会議を実施するほか、熱シンポジウムを企画する該当年次においては小委員会の予算配分を幾分か割増し頂く措置を講じて頂きたい (今回は、熱環境運営委員会の予算を融通いただくことで対応した)。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>バイオクライマティックデザイン小委員会では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 持続可能な建築・都市の実現に寄与するパッシブ要素技術のデータベース化 2) 住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築 3) 地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の検討。 <p>について活動した。</p> <p>5 回の小委員会は、傘下の環境適応ワーキンググループと共催で実施した。毎回、委員のそれぞれが話題提供を行い、事例や研究データを蓄積した。</p> <p>2015 年度の特記すべき事項として、上記の 1) ～3) のすべてを包含する形で、第 45 回熱シンポジウムを開催したことが挙げられる（参加者 80 名）。さらに、熱シンポ後には、熊本県の協力を得て、バイオクライマティック建築を見学し、1)～3)の活動へフィードバックさせた。2) については、環境適応モデル WG を中心として検討を進め、建築学会大会（関東）で OS として企画し、各委員がそれぞれの成果を発表し、議論を深めることができた。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。